



平成 19 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社 栄 電 子
 代表者名 代表取締役会長兼社長 染谷 英雄
 問合せ先 取締役 総務部長 内田 淳
 (J A S D A Q コード番号 7 5 6 7)
 T E L (0 3) - 3 8 3 6 - 6 8 2 1

平成 20 年 3 月期 業績予想の修正について

平成 19 年 5 月 22 日付「平成 19 年 3 月期 決算短信」において公表いたしました、平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正

中 間 期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想（A）	5,526	306	310	184	36 円 32 銭
今回修正（B）	4,185	116	125	70	13 円 95 銭
増減額（B - A）	1,340	189	185	113	
増減率（%）	24.3	62.0	59.7	61.5	
（参考） 19 年 3 月中間期実績	4,881	265	278	168	33 円 15 銭

通 期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想（A）	12,173	786	797	473	92 円 98 銭
今回修正（B）	9,151	355	370	208	40 円 92 銭
増減額（B - A）	3,021	430	427	265	
増減率（%）	24.8	54.8	53.6	56.0	
（参考） 19 年 3 月期実績	9,482	479	526	289	57 円 01 銭

2.平成 20 年 3 月期 個別業績予想の修正

中 間 期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~平成 19 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	5,080	280	284	168	33 円 15 銭
今回修正 (B)	3,794	104	108	60	11 円 85 銭
増減額 (B - A)	1,285	176	176	108	
増減率 (%)	25.9	62.9	62.0	64.3	
(参考) 19 年 3 月中間期実績	4,488	253	261	154	13 円 09 銭

通 期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	11,198	700	718	426	83 円 73 銭
今回修正 (B)	8,299	315	321	178	35 円 07 銭
増減額 (B - A)	2,899	395	396	247	
増減率 (%)	25.9	55.6	55.2	58.1	
(参考) 19 年 3 月期実績	8,701	448	485	260	51 円 19 銭

3. 修正の理由 (連結業績)

中間期の業績について

売上高につきましては、当社主力の半導体製造装置業界などの堅調な需要予測及び新商品の販売展開など、販売力強化により引き続き拡大を進める販売計画に対し、当社グループの第 1 四半期の結果につきましては厳しい結果となりました。

その背景といたしましては、全般的には堅調と見込まれる半導体製造装置業界におきましても、好調を維持する装置と、一時的に減産調整に入る装置との色分けが鮮明化するなどの影響を受け、受注が減少いたしました。

それに加え、販売先の大半を占める産業機器市場の中小企業につきましても、生産調整など減産傾向に転じてきている取引先が拡大しつつあるのが現状であります。

そのような状況の中で当社グループの売上高は、前年同期比 11.6%減の 2,117 百万円となりました。

状況把握と今後の受注動向の見極めを図るため、当社主力取引業界であります半導体製造装置業界をはじめ、1 千社を超える当社取引先の現況を個々に分析し、生産計画・受注見込み等検討いたしました結果、中間期の売上高予測といたしましては、4,185 百万円 (前回予想比 1,340 百万円の減少) にとどまる見込みであります。

営業利益につきましては、売上高の低調推移から売上総利益の減少が見込まれ、販売費及び一般管理費の削減等に努力しておりますものの、116 百万円 (前回予想比 189 百万円減少) となる見込みであります。経常利益につきましては、125 百万円 (前回予想比 185 百万円減少) また、当期純利益につきましても、70 百万円 (前回予想比 113 百万円減少) となる見込みであります。

通期業績予想について

通期業績予想につきましても、引続き厳しい状況が想定されており、売上高につきましては 9,151 百万円（前回予想比 3,021 百万円減少）となる見込みであります。

営業利益につきましては、355 百万円（前回予想比 430 百万円減少）経常利益につきましては、370 百万円（前回予想比 427 百万円減少）となる見込みであります。

また、当期純利益につきましても、208 百万円（前回予想比 265 百万円減少）となる見込みであります。

4. 修正の理由（個別業績）

中間期の業績について

個別業績修正の理由につきましても、連結業績で述べた同様の理由となります。

売上高につきましては、3,794 百万円（前回予想比 1,285 百万円の減少）となる見込みであります。

営業利益につきましては、104 百万円（前回予想比 176 百万円減少）経常利益につきましては、108 百万円（前回予想比 176 百万円減少）となる見込みであります。

また、当期純利益につきましても、60 百万円（前回予想比 108 百万円減少）となる見込みであります。

通期業績予想について

通期業績予想につきましても、同様に引続き厳しい状況が想定されており、売上高につきましては 8,299 百万円（前回予想比 2,899 百万円減少）となる見込みであります。

営業利益につきましては、315 百万円（前回予想比 395 百万円減少）経常利益につきましては、321 百万円（前回予想比 396 百万円減少）となる見込みであります。

また、当期純利益につきましても、178 百万円（前回予想比 247 百万円減少）となる見込みであります。

5. 今後の販売強化策について

今期に入り大手部品メーカーとの代理店契約を結ぶなど、代理店・特約店としての販売力強化を進めております。

また、半導体製造装置向けに特化し推進する専任部門の設立。新商品・新素材を取扱い拡販する専門部門の設立など、機動力のある専門部門の活用を勧めております。

既存の取引先並びに小口販売先の幅広い開拓を進めるために、中途採用による即戦力の販売員の増員を行っており、営業力の強化に努めてまいります。

以 上